



輝いている人

芸術に国境はなく、
心と心は通じる

墨彩画を描き続けて17年。その集大成となる画集『おそ咲きの花開く大輪小輪』を発売したのが枝松國明さんだ。

画集は単なる作品集ではない。認知症の母の介護や自身のがんと闘い、伊与部山(下原)の散策道や歌碑の整備、世界平和への願い、タイ王室の芸術交流など、墨彩画が語る枝松さんの自分史とも言える。掲載した作品の写真も、自身で撮影。まさに手塩に掛けた一冊だ。「母の介護や、前立腺がんとの闘いもあって、そういう生活のなかで絵を続けたということを見てほしい」と語る。

小学生のころから鉛筆画が好きだった。墨彩画を本格的に始めたのは66歳のとき。「初めて描いたのは宝福寺の三重塔。今でも塔を描くのはむずかしい」と当

墨彩画を通じた文化交流などで活躍中

枝松 國明さん(下原)

時を振り返る。

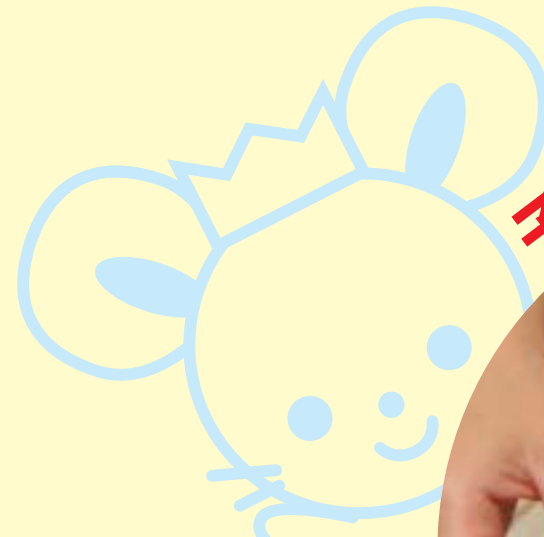
題材は市内の名所のほか、北は北海道、南は沖縄まで日本各地を飛び回り、これまでに描いた作品は500点を超える。「作原(日羽)にある椋の古木の力強さが、今でも好き」と、お気に入りを見せてくれた。

今年3月、日本とタイの芸術交流に貢献したとして、タイ日文化功労者賞を受賞した。タイのみならず、イタリアやフランスなど29か国で、平和や自然美などをテーマにした作品を出展。数多くの賞に輝いている。「心の内面を絵で表現している。芸術に国境はなく、心と心は通じる」とも。

制作活動や墨彩画の指導で忙しい毎日。自分を磨くことにもなる。そのためにも健康でないとい

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そうじや編集室(企画課)までご一報ください。自薦・他薦は問いません。

子どもの虫歯予防



乳幼児期のむし歯予防には、食事の与え方や保護者の仕上げ磨きがとても大切です。お子さんが仕上げ磨きを嫌がって困るようなことはありませんか？お子さんが歯磨きを嫌がるには、いくつか理由が考えられます。

◎磨くとき力が入りすぎていませんか？

歯ブラシは鉛筆を持つように軽く持ち、歯ぐきを傷つけないように、歯ブラシを小さく、ちょこちょこ動かして磨いてあげましょう。

◎突然、寝かせて歯磨きを始めていませんか？

口に歯ブラシを突然入れると、びっくりして歯磨きを嫌がることがあります。小さいお子さんは指で口のなかやほっぺたを触って、口に触られることに慣れるようにしましょう。また、歌を歌ったり、お話をしたりしながらリラックスさせて磨いてあげると良いでしょう。

「歯磨きは楽しくて、気持ちいいものだ」と覚えてくれると、仕上げ磨きがとても楽にできるようになります。また、かかりつけの歯医者さんを見つけて、定期的に検診を受けたり、歯の磨き方を教えてもらうのも良いでしょう。

問い合わせ こども課母子保健係 ☎92-8261

お母さんに歯を磨いてもらう池上仁くん(中央二丁目)は、「虫歯きらいだから、お母さんに磨いてもらう」と教えてくれました。

キッズにっこり
家庭応援談

3

栄養委員さん
おすすめおやつ

吉備路納豆



◆材料・数量

- 大豆……1カップ
- A……砂糖=1カップ・スキムミルク=大さじ5・水=2分の1カップ
- きな粉、青のり、スキムミルク、揚げ油……適量

◆作り方

- ①一晩水に漬けた大豆をじっくり油で揚げ、いったん取り出し、さらにカラッと2度揚げる。
- ②鍋にAをいれ、絶えずかき混ぜながら煮詰める。
- ③①をボウルに入れ②をからませ、うちわであおいで冷ます。
- ④③を3つに分け、それぞれにきな粉、青のり、スキムミルクをまぶす。このとき大豆が一粒ずつほぐれるようにする。

◆アドバイス

大豆を使ったカルシウムたっぷりのおやつです。